

# 苗場山麓 ジオパーク

Vol.  
35

## 振興協議会だより

〔発行日〕平成31年2月28日  
〔発行〕苗場山麓ジオパーク推進室  
〔お問い合わせ〕025-765-1600



### 苗場山麓ジオパークの再認定が決定しました！

平成31年1月18日、栄村役場村長室にて、日本ジオパーク委員会からの再審査結果発表の電話を受けました。苗場山麓ジオパークはこの4年間の活動が認められ、みごと再認定となることができました。ひとえに住民の皆様のご理解とご協力のおかげであり、また、この地域に備わっている多種多様な地質・地形や動植物、私たちがここで生まれ育んできた文化など、様々な資源あつての賜物です。この場を借りて、心より御礼申し上げます。

さて、今後4年間は「ジオパーク」を名乗り活動することができることは、皆さんご周知の通りかと思いますが、再認定発表後の1月31日に日本ジオパーク委員会より「第36回日本ジオパーク委員会審査結果報告」が出されました。

内容は、再審査の総評及び優れている点、さらに次の再審査までのいわゆる「宿題」である今後の課題・改善すべき点などです。

総評・すぐれている点としては、「①この4年で教育による地域社会への波及効果が認められた。②運営体制の強化・組織化が行われ、地域の人々のジオパーク活動が進んだ。③ボトムアップ型ジオパークが徐々に形成されつつある。」とのことで、ジオパークの理念が地域に根付き、活動が盛り上がってきたことが審査員の目から見ても印象的であったのでしょう。

指摘された「宿題」としては、おおむね2年以内に「①プロモーションの展開（情報発信の拡充等）、②ガイド拠点の整備、③基本計画・行動計画の策定、④事務局機能の継続性の確保、⑤域内外ネットワークの強化」を行う事、おおむね4年以内に「①可視性の改善（看板などの改善・サイクリングやウォーキングなど観光活動ごとの地図の作成など）、②施設におけるジオパーク展示の改善、③気候変動に関するジオストーリーの拡充（「河岸段丘ができた訳」など、この地域と地球全体とのつながりの研究）、④文化遺産・無形遺産の目録の作成とその活用、⑤防災・減災への取り組み強化」を行う事、といったことでした。全体としてまとめると、「この地域の魅力をわかりやすく情報発信すること」と、「地域の魅力がより高まるように研究を推進し、組織としての地固めを続けること」といったことです。

地域の魅力発信は、私も今年の栄村の3本の目標のひとつとして掲げており、ジオパークでも指摘をされてその重要さを再認識したところです。2018年9月現在、日本にジオパークは44カ所あり、それらの地域が独自の魅力ある活動を繰り広げていく中で、地域ごとの差異を示し魅力を伝える情報発信は、今後ますます重要になってくることでしょう。

まだまだ、課題は多くありますが、平成の最後の年に喜びを持って次の時代に進めることは、本当に有難いことだと考えています。この苗場山麓という雪深い地域が「こんなに素敵で楽しいところなんだよ。」という事を、日本中に、そして世界中に伝えるにはどうしたらよいのか、皆で『やる気と根気と元気』をもち、ともに考え進んでいきましょう！

森川浩市







## 第4回苗場山麓ジオパークフォトコンテスト結果発表

4回目を迎える今年は、43人から99点の作品の応募がありました。今年は、春、夏、秋、冬、祭り、暮らし、植物、学生の部門をつくり、その中から最優秀賞と各部門賞、スポンサー賞を選出しました。審査は、写真に精通された方2名、認定ガイド2名、ジオパーク推進室長の5名で行われました。年々、レベルの高い作品が増えているように思います。

以下、最優秀賞と、春夏秋冬部門賞を掲載します。詳しい結果はHP (<https://naeba-geo.org/>)でご覧いただけますので、ぜひご確認ください。



|      |   |   |
|------|---|---|
| 最優秀賞 |   | 秋 |
|      |   | 冬 |
| 春    | 夏 |   |



## 第2回民学官(CAP)会議が開催されました

12月20日、第2回苗場山麓ジオパーク民学官会議(CAP会議)が開催されました。本会議は昨年から開催され、地域住民の代表である協議会委員の各部会長と学術指導委員の専門家、事務局が揃って意見交換を行い、新年度の事業計画、取り組みを検討する場となっています。

今回は特に、再審査を終え、審査中に指摘のあった「観光発信」について議論されました。



学術指導委員からは、関東地方以外にも県内の新潟市・長野市にもまだまだ情報は届いていないという厳しいご指摘を頂きました。その上で、ジオパークブランドを活かして、観光客のニーズを把握し、家族連れなどを対象とした商品開発やタクシーを借り上げて回ることができる交通情報の提供、「ジビエ、ドングリなどここに来たら食べられるもの、できることの提供」、「開発費の補助の仕組み」の検討などの意見交換が行われ、横の連携、情報共有の重要性が改めて認識されました。今後、再審査の結果を受けて、その対応を含めた活動を行っていく予定です。



認定ジオガイド  
が伝える

北海道地図(株)「THE GEOART」より  
関田山脈と千曲川

# ここが好きだよジオパーク

認定ジオガイドがおすすめの場所、  
もの、ことなどを紹介していきます。

中沢謙吾さん



## ジオパークはミステリー!? (ガイド No.5 中沢謙吾)

私たちの住んでいるこの地域が大昔は海だったこと、その後の隆起や火山活動によって、現在の地形になったことは皆さんもよくご存知ですよ。ですが、現在も隆起し続けていることはあまり知らされていません。日本列島は4つのプレートの力によって今も1年に1mm程の隆起が続いていますし、南アルプス(赤石山脈)では年に5mm程の隆起が続いていて、日本列島の地形は今も変化し続けているのです。

今回は私の近くにあるジオサイト【小滝・四ツ廻りの滝と運河跡】をご紹介します。所在地は地図で見ると千曲川が大きく南に蛇行し、ヒョウタンのお尻の様な形をした所が「青倉・四ツ廻り」で、その対岸にある大きな中洲に滝と運河跡があります。その存在は地元でもまったく知られていませんでした。小滝が善光寺街道(古道)の復活に取り組み始めた10年ほど前、地元の老人が子供の頃<sup>ひき</sup>に聞いた「船曳の足跡」があるという話からそれが発見されました。千曲川(信濃川)の通船は江戸時代の活発な経済活動に伴って大量輸送が求め



小滝・四ツ廻りの滝と運河跡

られるようになりましたが、栄村・津南町間は急流が多く船が通れませんでした。江戸時代後期になるとますます物流量が増え、水運への期待が高まると善光寺町の豪商が幕府の許可を得てこの急流(滝)域に迂回する運河を10年の歳月をかけ完成させましたが、直後の善光寺地震で再び通れなくなりました。その後も川普請が続けられ、通船が行われていたようで、大正時代になると中津川発電所の建築資材は鉄道で飯山まで運ばれ、そこから百艘以上の船を使って津南町芦ヶ崎まで運んだ

そうです。昭和に入り鉄道の開通で水運は役目を終えました。

中洲には小滝の名前の由来となった滝(急流)と岩盤を掘り込んで作った運河、船を引いた足掛け穴、大岩を割ろうとした楔穴<sup>くさび</sup>などを見ることができます。また、河川敷面には多くの巨石や断層を見ることができます。8年前の地震の際も話題になった「信濃川断層帯」は川に沿った活断層によって地震が引き起こされると言われています。しかし、この地域には川を南北に横断する多数の断層が存在し、急流(滝)・川の蛇行・溪谷を作っています。長野県北部地震の震源域も南北方向でした。この地域の複雑な地形の成り立ちはまだはっきり解明されていません。

大昔、千曲川は長野盆地から上越方面に流れていました。しかし、関田山脈の隆起や火山活動などによって方向を北から大きく東に変え、現在の流れになりました。またその過程で長野盆地・飯山盆地には大きな湖が存在していた痕跡(豊野層)が今も残っています。ひょっとすると琵琶湖ほどの大きさだったかもしれません。流路が変わった事が、私たちの地域の地形の成り立ちにも深く関係していると思われます。「四ツ廻り半島」も大規模地滑りによって貝立山(標高973m)付近から4kmも移動してできたそうです。大きな時間軸の中で大地の壮大な躍動があり、現在の地形が出来上がりました。その詳細なジオストーリーは今後の調査研究によって解き明かされるでしょう。まさにミステリーですね。





## 突撃しよう!となりのジオ便り～浅間山北麓ジオパークからこんにちは～



浅間山北麓ジオパークは、群馬県北西部の長野原町と嬭恋村をエリアとし、上信越高原国立公園(苗場山から浅間山までの山岳地域)の一部を含んでいます。

最大の特徴は、この地域で暮らす人々の原風景として圧倒的な存在感のある浅間山の火山活動によるダイナミックな地形・地質を目の当たりにできることです。浅間山は、約10万年前以降大きな噴火を繰り返してきました。その中でも、江戸時代の1783年の噴火は、人々の暮らしに計り知れない影響を及ぼしたことが数多くの記録に残されています。当時浅間山北麓で最大の鎌原村の人口は570人でしたが、噴火による鎌原火砕流/土石なだれが高速で流れ下ってきて、あっという間に5、6m堆積し、477名の方が生き埋めとなりました。一方高台の鎌原観音堂に避難した人たちが生き残り、その後同じ場所で生活を再建しました。このできごとは、236年経った今も鎌原観音堂で語り継がれています。さらに、鎌原火砕流/土石なだれは、吾妻川へ下って泥流となり、川沿いの村々を飲み込んでいきました。

この地域は、標高が高く、冷涼な気候(年平均気温が札幌並み)のため、特徴的な暮らしが営まれてきました。例えば江戸時代には、米がほとんど収穫できませんでした。そのため、日本海側の穀倉地帯から、米などの物資を運搬する交通路として栄えていた大笹街道の複数の宿場による収入がたいへん重要でした。一方現在では、夏季の冷涼な気候や浅間山噴火による火山灰を母材とした優れた性質を持つ黒ボク土を利用した夏秋キャベツ(嬭恋村のキャベツの生産量は、全国一)、ハクサイ、レタスなどの栽培が盛んです。

浅間高原の動植物は、種類が豊富で、どなたでも見て楽しめます。森林植生は、1783年の噴火以降回復しつつあります。現在はアカマツやシラカバなどが主体ですが、標高が高くなるとカラマツなどへ変わります。また野生植物は、季節ごとに北海道でも見られる美しい花が多数咲いています。このような中で、国指定特別天然記念物ニホンカモシカなどの哺乳動物、ルリビタキやメボソムシクイなどの野鳥、昆虫ではミヤマシロチョウやベニヒカゲ、ミヤマモンキチョウなど亜高山性ならではの生き物を楽しむことができます。

言わずもがな、浅間山北麓ジオパークの魅力は、現地で体験するのが一番です。みなさまにお会いできるのを楽しみにしております。



右写真：トーミの頭から見た浅間山



## ガイド認定検定のお知らせ

3月16日になじよもんにて第5回苗場山麓ジオパークガイド認定検定(初級)を実施します。苗場山麓に関心のある方ならどなたでも受検可能です。受験料は無料です。みなさんぜひ挑戦してみてください!

**実施日時:**平成31年3月16日(土) 13:30～14:30(13:00開場)

**会場:**農と縄文の体験実習館「なじよもん」

**申込締切:**平成31年3月8日(金) 17:00まで ※郵送の場合は3月8日当日消印有効

**申込方法:**所定の用紙に必要事項をご記入の上、下記申込先まで、持参・郵送・FAXのいずれかにてお申し込みください。

**申込先:**苗場山麓ジオパーク推進室 電話 025-765-1600 FAX 025-765-2299

**検定料:**無料

お問合せは上記、ジオパーク推進室までお電話ください。